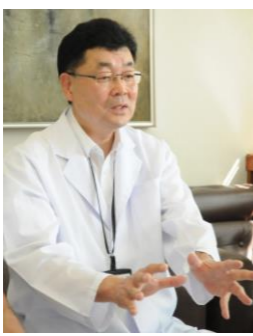


## Case4

# ADL 低下を全スタッフの知恵で阻止

## ～宮崎病院での入院中の骨折予防への取り組み～

### 負のスパイラルを防ぎたい



「内科を訪れる患者さんの平均年齢は75歳。そもそも骨折しやすい高齢者が多いのです」

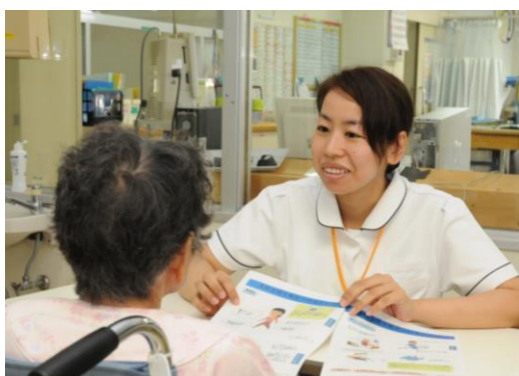
そう話してくれたのは副院長の三原太医師です。地域の高齢者医療を担う同院では、入院中の骨折予防を強化したいと考えていたといいます。他の病気で入院しても、さらに骨折してしまふと入院期間が長くなるだけでなく寝たきりにつながることもあり、時には認知症まで発症しやすくなるのです。

高齢者の骨折は、ADL（日常生活動作）を低下させる負のスパイラルへのきっかけになりやすく、特に注意が必要なため、「高齢者の入院中の予期せぬ骨折発生率」は臨床評価指標のひとつになっています。

### みんなで頭を捻って生み出したもの

同院では、「医療の質向上委員会」の活動として「高齢者の入院中の予期せぬ骨折の予防」をテーマに選び、2015年10月から取り組んでいます。もちろん、委員会としての活動開始以前から、骨折につながりやすい転倒・転落への注意を入院時にベッドサイドで患者さん本人に説明したり、ハイリスクな患者さんにはベッドに離床センサーを付けたりしていましたが、いずれも“言葉による説明”でした。

そこで、病棟の看護師とリハビリテーションスタッフを中心に、医師・薬剤師・放射線技師・事務職などさまざまな職種のスタッフが集まりアイデアを出し合いました。こうしたアイデアから生まれたのが、骨折予防のためのパンフレット改訂やDVD、さらにはピンク色のリストバンドです。骨折を起こしやすい動作を理解してもらい、危険を回避するための“見るだけで分りやすい”方法を新たに追加したのです。



## 見ただ目で分りやすい方法の数々

まず、大腿骨（太ももの骨）骨折や椎体圧迫骨折（もろくなった背骨が押しつぶされる骨折）の85歳以上の患者さん（入院患者の約27%〔2016年度〕）に絞って骨密度を測り、特に骨折の可能性が高い方をハイリスクな患者さんとして選び、今回の新しい対応を追加しました。

新しいパンフレットでは、入院生活全般、車いすと歩行器の各使用時、杖歩行時の4つの機



会ごとに、イラストを用いて見た目にも分りやすく注意点が書かれています。パンフレットは年齢に関係な

く全入院患者に配布されていますが、ハイリスクな患者さんには車いすを使うにあたって“4ページを見ましょう”と、看護師が該当する部分を見せながら説明しています。



また、DVD では骨折しやすい状況やしてはいけないことを、看護師自ら出演して再現しており、撮影もスタッフが行いました。ハイリスクな患者さんが入院すると、必ずこの DVD 上映会が始まります。



さらに、医事部門のスタッフの発案でハイリスクな患者さんのリストバンドをピンク色（普通は白色）に

変えたことで、スタッフは色を見ただけで“骨折への注意が特に必要な患者さん”と認識できるようになっています。

### アイデアが生み出した正のスパイラル



こうした方法により、白石誠看護師長によれば「どういう時に気を付ければいいのかわかりやすい」という患者さんが多く、渡邊美貴看護師長も「対象の患者さんに DVD を見せようとすると、同室の他の患者さんも一緒に見たいと言ってくれ、対象外の患者さんの意識も上がっています」といいます。対象外の患者さんの自発的行動により DVD を見ていただくことによって、患者さん自身が退院後の自宅での日常生活でも気を付けるようになるなど、正のスパイラルが広がっています。



「2015 年度上半期の骨折発生率は 1.0%でしたが、委員会活動として始めてから、入院中に骨折した患者さんは一人もいません。十分だと思っけていても、多職種でアイデアを出していくと、よりいいものが出てくるんだと分かりました」と三原副院長。既にほかの改善活動にも取り組んでおり、「医療の質向上委員会」の活動を病院全体で行うことで、効率、安全性、そして利用者の満足度をさらに高めていきたいと顔を綻ばせました。

#### ■宮崎病院（宮崎県川南町）



一般医療（60床）と共に、重症心身障がい児・者病棟 120 床を備える宮崎県北部の拠点。児湯郡・西都市で唯一入院手術のできる整形外科があるため高齢者の救急・入院も多く、地域に貢献する医療機関として欠かせない存在となっている。